

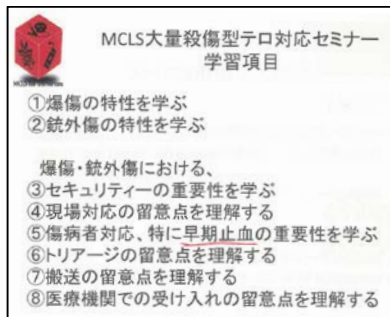
第 5 回 MCLS 大量殺傷型テロ対応セミナーに参加しました(2017/11/29)

テーマ：災害医療、テロ対応、爆傷、銃創
場所：東京大学本郷キャンパス鉄門記念講堂（東京都文京区）

2017年11月29日(水)、東京大学本郷キャンパス鉄門記念講堂において第5回 MCLS 大量殺傷型テロ対応セミナーが開催され、災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野の佐々木宏之助教が受講生として参加しました。日本集団災害医学会 MCLS (Mass Casualty Life Support) コースは通常、自然災害や人為災害での多数傷病者現場対応を目的として開催されますが、2020年の東京五輪や昨今の世界情勢を踏まえ、MCLS では CBRNE (Chemical: 化学、Biological: 生物、Radiological: 放射性物質、Nuclear: 核、Explosive: 爆発物) コースの開催が増えています。2017年11月18日(土)には宮城県で第1回目の MCLS-CBRNE コースが開催され、佐々木助教も受講しました。そのなかでも特に犠牲者の多い爆傷、銃創対応に MCLS 大量殺傷型テロ対応セミナーは重点をおいています。

当日は全国から医療、消防、警察、自衛隊関係の受講生が約 300 名集まりました。はじめに爆傷、銃創のメカニズムを学んだ後、爆傷・銃創に対する医療対応、タニケット(止血帯)の取扱いを学び、最後に4つの事例(マドリッド列車爆破テロ、ボストンマラソンテロ、秋葉原殺傷事件、パリ同時多発テロ)について検討しました。ボストンマラソンテロでは多数参加者に対して十分にメディカルスタッフが配置され、またテロ対策として初期対応を学んだ警察官が多数動員されていたこともあり、テロ発生後 24 時間以内に病院に搬送された 152 名の傷病者中、29 名が現場で大量出血を来していたものの、27 名にタニケットが使用され、病院到着後の死亡者が 0 だった、という悲しくも驚くべき転帰となりました。早期止血が重要視されることになり、現在、米国では市内全域に、AED とならんでタニケットが設置されているとのことでした。

欧米に比べテロ対応については未成熟な我が国の現状ですが、東京五輪など参加者の数多く集まる国際イベントも控えており、「対岸の火事」とせず、いざという時の初期対応を身につけたいものです。来年度、本セミナーを東北大学で開催する予定です。



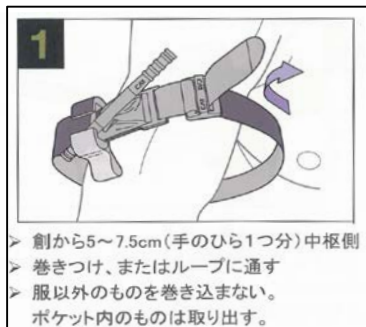
セミナーの学習目標、特に早期止血の重要性について



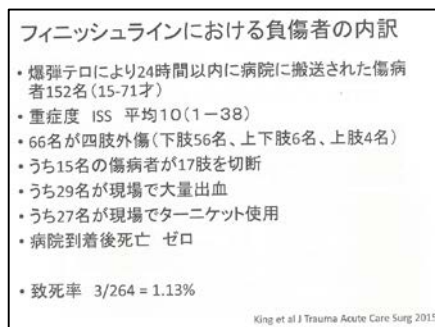
テロ手段の変遷
爆弾テロが飛び抜けて多い



AEDとならんで設置されているタニケット



タニケットの巻き方(最初)



ボストンマラソンテロのフィニッシュラインにおける負傷者の内訳